

# 幸せ感じる小さな出来事



おとうろ  
大内めぐみ  
ヨミウリ・ジュニア  
プレス記者 高3

この本は、ケニア在住の作者が、首都ナイロビのスラム街でゴミ拾いをしながら力強く生きる子どもたちをモデルにつづった物語です。

12歳のアイザックは、両親を亡くし、兄や姉とも別れて、親せきのおばさんに引き取ら

幸せの器

おぎ ぜんた・作

れました。ところが、貧しくて、十分な世話をしてもらえません。彼は家を出て、ゴミ袋の中からお金になる物を拾って生活している少年たちの仲間に加わります。

その後、児童養護施設に入り、学校に通えるようになりました。彼らを見守る美容師の、「幸せはね、小さい器に入れるものなんだよ。小さいとすぐいっぱいになって満足するだろう」という言葉が心に残りました。どんなに小さな出来事でも幸せを感じることができるとはすばらしいと気づかされました。(坂田泉・絵、偕成社、1400円)